



# ABILITY

## ABILITY Pro徹底攻略！

### その2 新機能「オーディオミキサーインスペクタ」の活用法

ABILITYは、オーディオとMIDIを統合した音楽制作の環境を提供するDAWソフトの最新バージョンです。本誌を手にしている読者の皆さんなら、伴奏を作成するMIDIの打ち込みも然ることながら、まずはギターやボーカルをレコーディングするオーディオ機能に興味があるかと思いますが、そこで今回は、ABILITYのオーディオまわりで注目の新機能を紹介していく予定です。まずは、新機能「オーディオミキサーインスペクタ」を使った新しいレコーディングの進め方を解説します。

(文：平沢栄司)

#### レコーディングで活用したい 「オーディオミキサーインスペクタ」

先代のSSWでレコーディングする場合、入力の設定はインプット・トラックで行い、レコーディングの準備や出力に関する設定は録音するトラックごとに行うというように役割分担されていました。それはそれで理にかなったものでしたが、やはり一括で管理できた方がシンプルでわかりやすいという意見もあるでしょう。ABILITYではインプット・トラックを廃止し、オーディオ入力からの信号は録音したいトラックヘダイレクトに送れるようになりました。

ここで、注目すべき機能が「オーディオミキサーインスペクタ」です。パッと見た印象から、トラックのパラメーターを別ウィンドウにまとめた「ミキシングのための画面」と思っている人も少なくないと思います。もちろんミックス作業でも利用できますが、それ以前に威力を発揮するシチュエーションがレコーディング作業なのです。入力から出力までの信号の流れとトラックの設定が1つの画面の中で集中管理できるため、録音前の下準備をスムーズに進めることができます。

#### オーディオミキサーインスペクタ の便利ポイント

作業の流れは、こんな感じになります。まず最初に、録音したいオーディオ・トラックのiボタンで「オーディオミキサーインスペクタ」を開きましょう(画面1)。ここでは左から右へと信号が流れていくので、左側から順番に設定を進めていけば、レコーディングを開始するまでの作業をこの中だけで完結できます。

##### 1. 入力レベルの調整がパッとできる

まずは一番左のInputのパラメーター群から設定していきます。録音モード・ボタンをONにするとオーディオ入力とトラックが接続され、中央のレベルメーターが出力から入力へと切り替わります。メーターを見ながら左上のインプットトリムつまみを操作すれば、録音レベルの調整が素早く行えます。また、後述のRec Effectを使用する際に、通過した音を聴くためのRECモニターのON/OFFもここから可能です。

##### 2. Rec Effectを設定すれば「かけ録り」もOK

ABILITYでは、インプットとトラックの間に最大で8つのプラグイン・エフェクトをインサートすることができます。これを利用すれば、パソコン直結でもエフェクトの「かけ録り」が可能です。例えば、付属のアンプシミュレーター「GUITER RIG」を通してライン録りのギターを迫力あるサウンドでレコーディングしたり、ボーカルをコンプレッサーやEQで整えてから録ることができます。設定は先ほどのInputの右にあるRec Effectで行い、各スロットでメニューを開き、使用したいエフェクトを呼び出します(画面2)。

##### 3. Pre Effectなら録音後の音色変更も可能

DAWならエフェクト処理前の生音を録音しつつ、その出力にエフェクターをインサートする「かけ録り」も

容易です。この方法では、後のミックスの過程でエフェクトの再調整ができる点にメリットがあります。設定は先ほどのRec EFFECTのスロットの右側にあるPre EFFECTのスロットにプラグイン・エフェクトを呼び出せばOK。インサートする場所は異なりますが、同じエフェクトを同じ設定で利用すれば、音色に差異はありません。

##### 4. Post Effectはフェーダーの後にエフェクトを挿入

トラックの出力では、もう1つPost Effectが利用できます。Preはフェーダーの手前、Postは後にインサートされます。これらをフル活用すれば、1つのトラックあたり16種のプラグイン・エフェクトが使用可能です。なお、Post Effectについては、今後のミキシング編の中で使いこなしの方法を紹介する予定です。

##### 5. 必要ならばSend・エフェクトだって利用できる

例えば、ボーカルを録る場合、自身の歌声のモニターに軽くリバーブをかけておくと気持ち良く歌えます。あらかじめEFFECTトラックにリバーブを用意しておけば、Send先に設定してリバーブ効果を加えることも可能です。

##### 6. 別のトラックにエフェクトの設定を丸ごとコピー

2本目のギターやボーカルのハモリを録る時、先にレコーディングしているトラックと似たようなエフェクトのセットアップになるかと思えます。オーディオミキサーインスペクタのRec、Pre、Postの各エフェクトのスロットは、他のトラックの設定をコピーする機能を備えているので活用しましょう。設定は各スロット上にあるボタンからメニューを開き、コピー元のトラックを選択するだけで、とても簡単(画面3)。インサートされているエフェクター一式とその設定が丸ごとコピーされます。

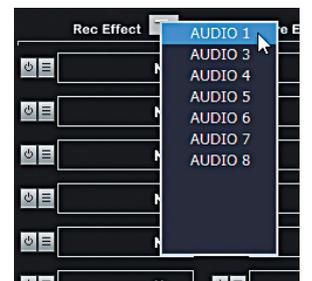
今回は、ボーカルのピッチやタイミングを補正する「ボーカルエディタ」に搭載された新機能、AUTOハーモナイズを紹介します。



画面1 新機能「オーディオミキサーインスペクタ」の画面。インプットからアウトプットまでの信号の流れに沿って、ミキサーやトラックのパラメーターが配置されている



画面2 Rec、Pre、Postそれぞれに8つずつ用意されているエフェクトのスロットをクリック。すると、インストールされているエフェクトの一覧が表示されるので、インサートしたいものを選択しよう



画面3 メニューからコピー元になるトラックを選択する。設定込みで一括してコピーするだけでなく、空のトラックからコピーすれば全スロットを一発で初期化するためにも応用できる